

## しんじ こ ひ かわ 宍道湖斐川なぎさ公園整備事業

受賞機関 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所  
島根県斐川町

### はじめに

宍道湖斐川なぎさ公園は、全国で7番目の広さを有する汽水湖である宍道湖の西岸において、かつて湖岸域に存在した“なぎさ”を復元することを目的に、斐川町が整備する背後の公園と、宍道湖と公園とをつなぐ湖岸堤整備を国土交通省により実施したものである。

“なぎさ”の復元については、地元関係者（なぎさを創る有志の会）と斐川町により整備計画の構想策定がなされ、関係機関である国土交通省・島根県等との協議を経て、『埋立等により消失した“なぎさ”の復元』、『誰もが安全に親しめる親水性の高い水辺空間の創出』、『地域住民や隣接する出雲空港利用者が気軽に立ち寄れる魅力ある水辺空間の創出』を目指した『宍道湖斐川なぎさ公園』が計画された。

### 事業の概要

事業名：宍道湖斐川なぎさ公園整備事業

事業期間：平成11～14年度

総工事費：約430百万円

### 事業の特徴

整備計画は、宍道湖において湖岸道路や湖岸堤の整備により減少している“なぎさ”の復元を目的に、地元関係者と斐川町が中心となって平成7年頃より構想の策定がなされ、関係機関との協議を経て、平成11年11月に水と緑豊かな地域の交流拠点として、また、地域づくりの核となる整備を目的とする「水辺プラザ」の登録を受け、水辺に親しめる施設として計画された。



全景



しじみ取り

親水テラス

“なぎさ”の復元については、島根県が所有する空港用地を斐川町が占有することで土地を確保したうえで、既設のコンクリート式パラペット護岸の一部を取り壊して離岸堤として造り替え、その内側に引堤による新たな水面と砂浜広場を創出した。また、水辺には魚釣りにも利用できる水際テラスや遊歩道、車椅子の利用にも配慮したスロープの設置も行っている。背後の公園は、出雲空港駐車場から湖岸堤、宍道湖へとつながる散策路や、低木植栽、ベンチ、トイレ等が整備されている。

整備実施時には、公園から湖岸堤へのアクセスとなるスロープ部に必要となる盛土材を、引堤により発生した残土を有効的に利用するなど、国土交通省と斐川町のそれぞれの工事調整を図り、一体的な整備を行った。

整備工事は平成11年度末に着手、平成14年7月に完成し、同年8月に完成式を行った。

完成後の夏休み中には、新たに創出された砂浜で、水着を着た子ども達が胸まで浸かって宍道湖七珍であるヤマトシジミを採取したり、また、水際に設置された親水テラスで魚釣りをする親子連れの姿が多くみられるようになった。

また、この公園を含む宍道湖西岸域には島根県内の汽水・淡水域に生息する様々な生き物を紹介する県立宍道湖自然館「ゴビウス」や、多くの冬鳥が飛来する西日本最大級の宍道湖湖岸で野鳥観察ができる「宍道湖グリーンパーク」も整備されており、環境学習プログラムの体験学習の場としても大いに利用されている。

受賞賛助会員 まるなか建設㈱